

## 年間第 2 1 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 8 月 22 日 (日)

《あなたの霊魂、精神、心を満たす道を選びなさい》

主の平和。(主の平和)

今日の福音(ルカ 13・22-30)は有名な箇所ですので、別の説明をしなくても、これがどういうメッセージを持っているか直ぐ分かる内容です。

おもしろい話をしてみましょう。ある人が死んで、天国ではなく地獄に堕ちました。

「私の人生、もう少し神様がおっしゃったとおりにしていたら、こんな所に来なくても良かったのに」と後悔しながら周りを見回してみました。そしてその眼に入ったのは自分の小教区の司祭でした。驚いて「神父様はどうゆう訳でこちらまでこられたのでしょうか」と大きな声で挨拶のことばをかけました。それを聞いた司祭は「しっ、静かにしてください。横に司教様が休んでいらっしゃるんです。」

誰かが作った笑い話かも知れませんが、これには重いメッセージが隠れていると私は思います。ということは、イエス様を分かち合っていて、その息子、娘と言いながらも、「主の教えに従って生活しています」と言いながらも、それが天国を保障する事ではないのです。むしろ、知らない者が罪を犯すなら、何とか融通される可能性があるかも知れません。しかし、分かち合っていないながら信者らしくない、神様の子供らしくない生き方をしてしまうと、それは逃げ場がなくなると思います。簡単でしょうか？

イエス様が今日の福音で何の道を選びなさいとおっしゃったのでしょうか。狭い門、狭い道を選んでそこを通りなさいとおっしゃいましたね。では、狭い門に入るとはどのような事でしょうか。

既存の教育に対して反対をする人々がいます。今の教育制度の中での教育は、子供たちの人間性、人性を育てるのに相応しくないと考え、同じ考えを持っている人々が集まって、賛成する親の子供たちを教育する学校を作ります。そのような学校を代案学校(Alternative School)と言います。今の教育のシステムは、子供たちの為に良くないと思う人々が、組織を作って学校を建てます。自分たちなりに色々考えて、これが子供たちの人格形成に必要なだという考えをもって作られた学校です。その学校の中で、新聞に取り上げられた学校があります。その学校の方針は、出来るだけ自然の中で、人格的な関係の中で子供たちの人性を育てることでした。自然の中で自由に遊び、喜びながら勉強が出来るように環境を作ることでした。よく遊んでよく勉強することでした。そして、一番大事にするのは子供たち自身、そしてその子供たち同士の係わりを育てる教育が中心になったもので、憶えさせる事はあまりせず、頭で考えて問題を解く方法を教えました。いつでも本を開けてみたら分る事ではなく、自然に憶えられるという教育方針をもって、山の中で子供たちを教育した学校です。その学校の案内が掲載されている新聞を見ました。何故その学校が新聞に載ったかと言いますと、既存の教育方針と全然違うやり方で教育したけれど、いわゆる一番高いレベルの大学に殆どの子供たちが進学したので、これは何の学校だと話題になったのです。その案内にはこのように子供達が守るべき10の戒

めが書いてありました。

皆様、次の10項目の中で同意できるものはどのくらいあるでしょうか

### 《職業選択の十戒》

1. 月給が少ないところを選びなさい。
2. 自分が望むところではなく、自分を必要としているところを選びなさい。
3. 昇進の機会がほとんどないところを選びなさい。
4. 全てが備わったところを避けて、初めからやらなくてはならないところを選びなさい。
5. 皆が先を争って集まる場所へは絶対行かないようにしなさい。
6. 将来性が全然ないと思われるところに行きなさい。
7. 社会的な尊敬を狙えないところに行きなさい。
8. 真ん中ではなく、淵へ行きなさい。
9. 親とか、妻とか、婚約者が反対するところなら疑わずに行きなさい。
10. 王冠ではなく、断頭台が待っているところに行きなさい。

どうですか？ このような考え方で、子供たちを育てている親や先生方がいるのでしょうか。いないでしょう。しかし、よく考えてみますと、イエス様とか全ての人々に尊敬される人々が歩んだ道です。もちろん、このような生き方をわざわざしようとすれば、ちょっと変わり者ではないかと言われるかも知れません。しかし、一つ一つ考えてみますと、その言葉には全部意味があります。

「月給が少ないところを選びなさい」、どう意味でしょうか。「サラリーが少ないところに行きましょう」、どう意味ですか。この10項の共通点があります。「あなたの靈魂を、あなたの精神を、あなたの心を生かせる道を選びなさい」です。

今、この反対に月給の多いところを選ぶのが私たちの考え方です。そして自分が望むところに行けば幸せになれると思うのです。昇進し、高い位置に行き易いところを選ぶのが懸命な人だと言われます。全てが備わったところに行けば、何でもし易く出来ると思っています。先を争いながら集まる場所は、やはり何かがあるのだと思って皆行こうとします。将来性が全然無かったら行く必要はありません。社会的な尊敬を狙うところで無かったら、それはどういう意味があるのでしょうか。やはり尊敬されたいのです。そして淵より真ん中が良いのでしょうか。親や妻、婚約者が反対するなら、そこには訳があるのでしょうか。何よりも自分の為を思いそう言っているのでしょうか。断頭台より王冠が良いでしょう。

皆、そうでしょうか？ しかし、よく考えてみますと、子供たちに教えたこの10項の誓いには100%賛成は出来ないかも知れませんが、実際に私たちが求めている、探している“幸せ”というものが、この項目の中にあるかも知れません。この反対の道を歩んで来た私たちだから、「いつも満たされていない」そのような心で生きているのかも知れません。信仰というのも、このような観点から考えてみると、「やはり、意味がある」と思われるのではないかと思います。

皆様、イエス様がはっきりおっしゃいました。

『私はおまえを知らない』、

「私と一緒に食事をなさったではないですか」

『それは関係ない、私は知らない。出て行け』とはっきりおっしゃったのです。

皆様、私たちの人生については私たち自身が準備しなければなりません。今、生きている私たちの姿を毎日振り返ってみて、自分は本当に何を追いかけてここまで来たのかをいつも意識すべきではないかと思います。そして、そこに間違えたところがあったら、イエス様の前に跪いて祈ればよいと思います。やり直して行けばよいと思います。今日の福音をもう一度考えながら、“本当に私たちは正しいものを探しているのか”について考えてみましょう。

ありがとうございました。